

2020年度業務実績報告書

提出日 2021年1月20日

1. 職名・氏名 教授 新宮 晋

2. 学位 学位 修士、専門分野 経済学、授与機関 京都大学、授与年月 1986年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 マクロ経済学Ⅰ（2単位） 1年生	
② 内容・ねらい ミクロ経済学とともに経済学の基礎理論の一つとして、その後の経済学学修のベースになる理論の概念や論理を理解させ、経済学のコミュニティーに誘うことをねらいとする。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 学習時間が成果に結びつくことを学生に実感させたい。そのため、経済学的な考え方を易しいモデルで説明するとともに、テキストを指定しそれに沿うことで学習の便宜を図る。また、練習問題を予習課題として講義の準備を促すとともに、ゴールイメージを明確にするとともに、理解の助けになるよう、事後に練習問題の解答会を行った。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 マクロ経済学Ⅱ（2単位） 1年生	
② 内容・ねらい マクロ経済学Ⅰから引き続き経済学の基礎理論を解説。IS/LM分析、AD/AS分析など、マクロ的分析の全体像を明確に提示することをねらいとしている。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 かなり平易なテキストを参考書に指定し、練習問題での演習を使いながら、モデル分析への習熟を促すよう誘導。その際、時事の政策問題に言及しながらモデル分析の意味を理解させる。また、マクロ経済学Ⅰと同様練習問題を予習と位置づけることで講義の準備を促すとともに、ゴールイメージを明確にする。前期同様、今期も解答会を正規授業に組み込み、この科目で何を理解すべきと要求しているのかを明確にした。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 政治経済学（2単位） 2年生以上	
② 内容・ねらい 主流派のマクロ経済学やミクロ経済学の根底にある考え方を示すとともに、それらを支えている社会哲学的基盤を理解させること、近代思想史や政治哲学など経済学を取り巻く諸分野に言及することで、経済及び社会についての考え方は一様ではないことを理解させることをねらいとしている。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 経済学はあまたある社会現象の一つを解明する、重要ではあるが自己完結し得ない学問分野であることを理解させるため、できるだけ周辺領域に言及し、それらとの関連の中に経済学を位置づけるという目的を達するため、社会学や社会哲学、ヨーロッパ近代史についての基礎的な概容を紹介している。また政治哲学が提起する批判に経済学はどこまで応えうるのかについても、重要なトピックの一つとして採り上げた。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎ゼミ（2単位） 2年生	
② 内容・ねらい 担当科目「政治経済学」の前提になる諸論点をテーマとして採りあげ、議論させることで、社会的な課題についての考え方が多様であると同時に説得力に濃淡があることを実感させることをねらいとしている。論点の多くは具体的な経済政策の倫理的評価について現実に対立したり	

容易に妥協できなかったり、あるいはジレンマに立たされたりするものを選んだ。テキストはマイケル・サンデルの一般向け翻訳書を用い、論点の多くはそこで紹介されているものを改編して使用。こうしたルーティンの合間に、マクロやミクロの個々の理論の様々な論点について質問への応答という形で授業を進めた。		
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 テーマはこちらが用意し、それについて具体的な論点を各自にLINEで提示させる。それらについて練りの甘いものについて数回やりとりし、論点を明確にさせて授業で披露する。それらの中からいくつかを採りあげ、遠隔授業の「ブレイクアウトルーム」を効果的に使うことで、少人数（3人×5グループ）で自由に議論させ、そこでの結論ないし結論に至らなかったものを全体に提示させる。それらについて全体で議論した上で、ありうる可能性について整理したものをこちらが提示する、というふうに行った。この結果、議論が非常に活発で、突っ込んだ理解が可能になった。		
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等	
演習Ⅰ（4単位）	3年生	
② 内容・ねらい 専門書についてのきちんとした読み込みの経験を一通りさせることで、資料・データ・先行研究・文献利用の方法について学ばせる。この知見をもとに研究に値するテーマとはどのようなものかを理解させ、実際にグループ研究させて体験させる。テーマは前期・後期で異なるものにする場合もあるが、今年度は前期から練り上げたテーマの中から後期で実際に取り組むものを選択させることにし、これにもとづいて経済学や周辺領域についての知識を使いながら論理的説得的に思考できる訓練をすることをねらいとした。		
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 前期は仮想の研究発表に向けて各自でテーマを提示させる。きわめて稚拙な当初のテーマをみんなで練り上げることで、研究に値するテーマとはどのようなものか、また研究の基本的な作法にかなうテーマはどのようなものか、実体験させる。その上で、全員で練り上げてきたテーマの中から、グループ研究に相応しいものを選び、本格的に研究作業に入らせた。最終的な発表機会は学内のゼミナール・コンテストで、グループ・マネジメントやプレゼンテーション技能の向上を図るようにした。テーマの選定から結果に至るまで力量以上の負荷を課すことで、理解が表現の前提であることを学ばせる。そのための装置としてコンテスト形式での研究発表は非常に有益であり、学生達もそれによく応えたと実感した。		
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等	
演習Ⅱ（4単位）	4年生	
② 内容・ねらい 就職活動と並行して授業が進むので、読み切りの専門論文や総合誌記事などを使いつつ、適宜時事問題についての情報交換を織り交ぜる。後期はゼミナールの原点に戻り、入門的な学術書を改めて読み込み、4年間の経済学の総括とする。今回はマクロ経済学の理解の確認にも役立つ現代貨幣理論の一般的なテキストを用い、本学での講義で学んだことを使いつつ、それとの異同を確かめることで、理論的な枠組みが具体的な課題の何に答えようとしているのかについて理解を深めることを狙いとした。		
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 前期は遠隔の制約もあったが、読み切り論文を事前提示することでゼミでの議論の活性化を図った。後期は対面に戻ったこともあり、各章について丁寧レジュメを書かせ、その提示までに事前相談を求めることでゼミでの発表をより濃密なものにできた。		
(2) その他の教育活動		
SMAP世話人会運営		
SMAPインターゼミナールコンテスト運営		

4. 研究業績

(1) 研究業績の公表
① 論文
② 著書
③ 学会報告等 口頭発表「働き方としての「福井モデル」再考」『2020年度北陸地域政策研究フォーラム』報告（2020年11月、単独）
④ その他の公表実績
(2) 学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など 地域公共政策学会理事
学会・分科会の開催運営 北陸地域政策研究フォーラム運営サポート
(3) 研究会活動等
① その他の研究活動参加
② その活動による成果
(4) 外部資金・競争的資金獲得実績
(5) 特許出願

5. 地域・社会貢献活動

(1) 学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 福井地方最低賃金審議会委員（2008年～2015年、2017年～現在に至る） 福井地方最低賃金審議会会長（2017年～現在に至る） 福井特定最低賃金専門部会委員（2008年～2015年、2017年～現在に至る） 福井市中央卸売市場運営協議会会長（2020年～現在に至る） 福井市中央卸売市場取引委員会委員（2010年～現在に至る）
② 地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO・NGO法人への参加
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 COC+インターシップWGメンバー
その他
(2) 大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講
② その他
(3) その他（個人の資格で参加している社会活動等）

6. 大学運営への参画

(1) 補職
経済学部長兼経済・経営学研究科長（2019年4月～2021年3月）
(2) 委員会・チーム活動
FD部会部会長（2019年4月～2021年3月） 教学IR部会部会長（2019年4月～現在に至る） 教育研究審議会（2019年4月～2021年3月） 部局長会議（2019年4月～2021年3月） 教育研究委員会（2019年4月～2021年3月） 入試本部会議（2019年4月～2021年3月） 大学院委員会（2019年4月～2021年3月） 新型コロナウイルス感染症対策チーム会議（2020年4月～2021年3月） 新型コロナウイルス感染症対策本部会議（2020年4月～2021年3月） キャリア教育担当教員選考委員会（2019年4月～2021年3月）
(3) 学内行事への参加
オープン・キャンパス，入試説明会（武生東高校）
(4) その他、自発的活動など